

溜池の有効活用で災害に備えよう。

私たちの町では、住宅建設が進み都市化してきて、農地が少なくなってきました。その影響で、以前は農業用の溜池であったが、今は受益農地もなく管理組合も消滅して市が管理するようになってきている溜池が多くなっています。この溜池を有効に活用していくには、どうしたらいいのだろうかと常々考えています。

このままにしておいたら、草だらけの湿地みたいになるか、むやみに埋め立てられて駐車場や公園になってしまって昔の面影はなくなってしまうかではないかと希有しています。

そこで私は、この溜池の有効な活用方法について次のように方法を提案します。

1. 災害が発生するようになった原因として考えられること

(1) 豪雨時の現状

近年、ゲリラ豪雨やら50年に1回の大雨やらが頻繁に言われるようになって来ています。地球温暖化による影響が大きいのでしょうか、大気汚染がその大きな原因になっているような研究報告が多いようです。

私たちの町でも、A溜池では豪雨があるとすぐ下流にある道路横断暗渠が溢れて庭先に水が流れ込んだり、またB溜池では洪水吐けが溢れて道路が冠水したりすることがたびたび発生するようになって来ています。

(2) これらの原因として考えられること

なぜ、氾濫することが多くなって来たのかを考えてみました。

①もちろん、豪雨が多くなって来ていることはあります。

②市の管理になって、草刈り等は年2回ほど実施しているが、それ以外はしていない。

③A溜池は、貯水池が深く洪水調節機能があるのですが、その調節施設がないので洪水調節機能が発揮されずに豪雨時にはそれまで降った雨水が溜まってしまって、ピーク時には満杯になって流れ込んだ洪水がそのまま下流に流れてしまうようです。

④B溜池は、水深が浅く溜池内に葦などが増えてきており、洪水時になると中に堆積した泥などといっしょに枯れ草なども洪水吐け水路に流れ込み、排水口をふさいでしまっているのではないかと考えています。それが原因の1つとなって流下能力がなくなり溢れているのではないかと考えています。

2. 災害に強い町にするための提案

災害に強い町にするために、上記のような溜池の対策方法を提案しました。

(1) 溜池の管理体制（ソフトの構築）

このような溜池の管理体制と管理方法について、各地区住民と行政とで協働で検討を行っていく必要があると考えています。その中で

①管理体制について

管理主体は行政で、管理を外部委託出来ないか。外部委託者だが、地域のNPO団体、ボランティア団体、シルバー人材などで出来ないかと思っています。

②管理方法

溜池毎に管理マニュアルを作成して、行政と連絡をとりながら見回りや水量調節などを行う。

(2) 具体的な対策（ハード対策）について

①A溜池の場合は、洪水調節機能を発揮出来るように、溜池の改良工事を実施する。現況では、以前使っていたかんがい用水を取水するための斜樋があるが、洪水調節も溜池の水位調節も出来ない状態です。満水状態の日が多く水の入れ替わりもし難い。

そこで、水位を調節出来るような施設を施行するか、洪水調節改良工事が必要だと考えています。

また、池内には「こい」などの魚が多く生息しており、「かも」もやって来て泳いでいます。しかし、水が濁っていて汚く、なんとかきれいにならないものかと考えています。すぐ横は中学校なので、地域のボランティアグループで花壇整備したり、溜池のごみ拾いをしています。湖畔に桜の木も植えたりして美しい景観を未来に引き継ぎたいと考えています。

②B溜池は、全体的に水深が浅いので溜池の中に排水路を設置して、溜池の内部は洪水調節機能が発揮出来るように改良出来ないかと考えています。その洪水調節容量を持つ広場は、子供や老人の憩いの場として整備したらどうだろうかと考えています。

以上、溜池のことを提案してきましたが、行政と住民といっしょになって協働で検討して、経済的で最良の方向へ導いていただきたいと思いますと考えて提案いたしました。

以上